

第7回 立野小学校 授業研究会

講師

南部学校教育事務所
横浜市立豊岡小学校
横浜市立都田小学校

指導主事
校長
校長

松本 麗子 先生
成田 玲子 先生
今村 行道 先生

授業者 図工専科 腰 麻紀（3年2組）

図工 「チャレンジ TARO～TATENO と TARO の111年目の挑戦～」



立野小学校と同じ年に生まれた芸術家岡本太郎をテーマに授業を行いました。岡本太郎の作品のカード（A3サイズ）50枚程度や、子どもたちの背丈ほどある大きな作品シートを見て、子どもたちからたくさんの感想（「すごい！」「怖い」「きれい」等）を集め、そこから自分たちの作品を作っていました。同じ作品を見てもそれぞれの感じ方があること、逆に同じ感想が別の作品からも生まれていることに子どもたちは驚くと共に自分と異なる価値感を柔軟に受け入れることができました。講師の先生からは「3年生にとっては、難しい課題設定だが子どもたちが題材に興味をもち、それぞれ目標をもって活動することができていた。岡本太郎から、生き方を学んでいる児童もいたことはキャリア教育にもつながるのではないか」と意欲ある子どもたちの学習姿勢に評価をいただきました。

授業者 音楽専科 平出 納子（5年1組）

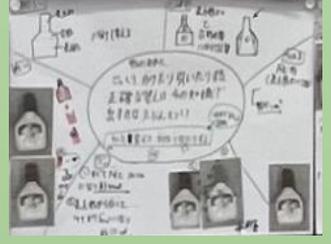
音楽 「曲の演奏のよさを理解して聴こう～変奏曲を楽しもう～」



変奏曲「ます」の鑑賞学習を通して、音楽のもと（要素）の変化と物語の変化には関わりがあるというよさを理解し、友達と意見交流しながら考えを広げていけるような授業を行いました。子どもの学習のまとめからは、「同じ主題でも強弱や楽器が変わるだけで物語も変わるんだ。変奏曲ってすごい！感動した」と何度も音を確認し、理解したからこそ得られた感動の言葉や、「楽器の数がもっと増えたらちがう物語になるかな…他の変奏曲もきいてみたい」など、新たな価値の創造へ向かっていく意欲が見られました。また、「同じ音楽をきいていても人によって想像した物語が違うのが面白かった」と、考えを認め合い広げていくよさを実感できていました。講師の先生からは、「音楽のもとと感じ取ったことを結びつけて考えられる板書になっている」「考える視点を子ども達がわかっているの、子ども同士で指名しながら意見交流ができると思う」と、子どもの良い姿から次の授業につながる評価をいただきました。

授業者 算数専科 大場 芽以（6年3組）

算数 「散らかりぐあいを表そう～概形とおよその面積～」



「散らかり具合」には、「物の面積」が関係しているのかを調べるために、はさみや接着剤など身の回りのもののおよその面積を調べる授業をしました。面積を求めた後に、「どうしてその形として見えたのか」を問うと「今まで習った形がないかなと探してみた」「点をとって頭の中で結んだ」など、図形を観察することについて、メタ認知する姿が見られました。講師の先生からは「グループでの話し合いが活発。言葉がどんどん出てくる。『正確な答えは今の知識で出すのは多分無理』と気付いた子どももいた。だからこそ、『どうして無理なの？』と問い返すことで、『ピッタリにはならないからおよそでしか見れない』と概括的に捉えることの意味に迫るとよい。」と子どもたちを価値づけていただくとともに、子どもの思いを活かす授業デザインについて示唆をいただきました。